

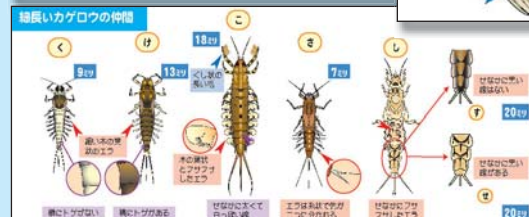
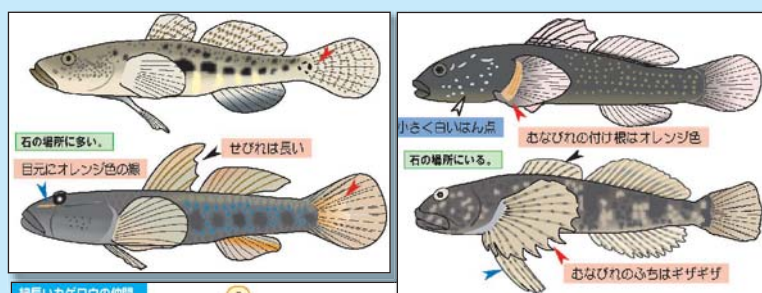
制作・発行＝さっぽろ自然調査館

◆〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45 山岸ビル3階
 ◆電話＝ 011 - (892) - 5306 ファクス＝ 011 - (892) - 5318
 ◆電子メール＝ chosakan@cho.co.jp
 ◆郵便局払込口座＝ 02740-2-58150 [(株)さっぽろ自然調査館]



新年年賀状号

展示つくるべし・ハンドブック特集



●魚をPCイラストで描き分ける
 → 14頁



●チョウのパパクラ製作・白黒編 → 22頁



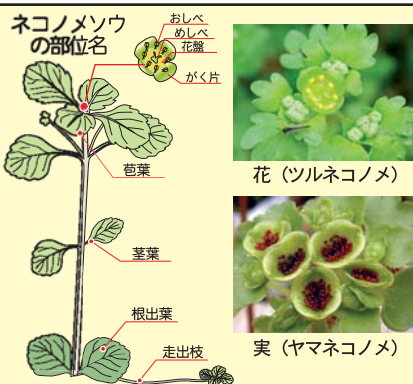
藻岩山動物調査報告書



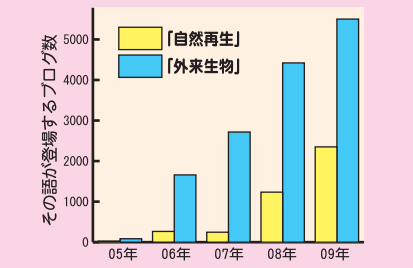
達古武地域環境学習プログラム集



●2009年製作物の紹介 → 9頁



●スケッチ観察・ネコノメソウ → 1頁



●ウェブで検索・グーグルで流行調査 → 5頁

●今月までの活動・ニュース → 25頁・裏表紙

今月までの活動・ニュース 1-12 月

2009 年の主な活動をカレンダー順に紹介します。

1 月

●国兼先生来訪〔7 日〕

植物友の会などでお世話になっている国兼さんが事務所を尋ねてきてくれる。ご友人に譲り受けたというプランタ 48-82 号を寄贈していただく。学生時代に買っていた号があるが、欠番多かったのでありがたいといただく。友の会の菩多尼訶など収集した文献類も使わなくなったらいただくという内諾も得る（証拠に書いときます（笑））。その後ご友人お亡くなりになったということだった。広い事務所に移ってもう 5 年になるが、文献等を引き取って集積できるのは非常に嬉しい。なかなか整理できないけど...（お）

●北大中村研ゼミに参加〔15 日〕

北大の中村太士先生の研究室に修と展之が訪問。解析方法についてのご相談と、保護区の設定方法についての話題提供を行なった。話題提供については、中村先生が学生たちに研究でやっていることと社会との関わりを意識してほしいとのことと依頼され、解析データを交えながら説明する。学生の皆さんからは、実際の現場ではデータが限られる中で、いかに有効的な解析をするための方法等についていろいろと意見いただく。生物の分布データでは、いる場所の情報はあるが、いない場所の情報がないといったケースが多々ある。いる場所といない場所の環境を比較することで、いる場所の特徴を明らかにできるわけだが、なかなかいないデータを集めるのは大変だったりする。それが、いないデータがない場合でも、解析できるとソフトがあるということで、院生の赤坂さんに丁寧に教えていただく。久しぶりのゼミの雰囲気はなつかしい感じだったが、学生さんはとても若く見えた。（の）

●日野間さんから文献寄贈〔28 日〕

伊藤浩司氏らとともに『北海道高等植物目録』（たくぎん総研）を取りまとめた日野間彰さんから、多数の貴重な文献類を譲り受けることになった。これまでは日野間さんが自宅で大切に保管してきたものだが、若い世代に文献をもっと活用してほしいということで、一部を調査館で管理、活用することになった。車でピストン輸送する。11 月 26 日にも追加分を引き取りに伺う。（に）

2 月

●知床世界遺産研究者報告会〔4 日〕

2008 年度も林野庁の仕事で知床での調査を担当したため、その報告を渡辺（修）がする。今回は岬地区での植生調査と森林調査区のモニタリングについて。エゾシカの影響を定量的に整理できたものを報告した。岬では環境省の調査・取組みや大学の調査なども入り組んで実施されており、ちょっとややこしい。

相変わらず報告は多岐分野に渡り、長時間の報告会は全ては聞けなかった。主催する環境省も少ない予算でこれだけのことをやっているということで、多少は褒められてもいいと思う（最近あった事業仕分けでは別の事業だが褒められてた（笑）。（お）

●生物多様性検討委員会〔20 日〕

北海道森林管理局が主催する委員会が前年 10 月に引き続き開催される。ウチは大雪・日高地域の保護林の拡充などの調査検討業務を担当していて、それを報告する。委員会は公開形式で、資料もウェブで公開されているが、報告したものは希少種情報も多く含み、非公開なのであしからず。

小笠原の自然環境や希少植物保護の実態を生で知りたくて、はるばる出かけてくる。フィールド屋としてはできるときにいろいろな経験を積んでおきたいもの。また、小笠原には随所に林野庁や環境省の保護区指定があり、現在調査館が関わる林野庁の保護林拡充事業や環境省の自然再生事業の先進地でもある。ただぼんやり行くだけではもったいないので、そういう場所の視察を組み入れた。

小笠原へは基本的に小笠原丸という船で行く。この1隻が東京と父島の間を1週間に1度行き来しており、旅行者はみなその航海に合わせて旅程を組むことになる。好きなときに出かけるというわけにはいかないのだ。通常、火曜に東京の竹芝桟橋を出て、日曜に戻ってくる。片道25.5時間かかるので、1航海分では正味3.5日程度しかいられない。行ってみて知ったが、小笠原のリピーターはたいてい2航海分、島に滞在している。

小笠原では現在、父島と母島のみ観光客の滞在が許されていて、属島と呼ばれる島々には基本的に立ち入りができない。資料を読み漁ると自分に向いているのは母島だろうというのが分かったので、母島メインで旅程を組む。また、短時間で母島の植物をしっかりと見ようと思うと、現地の自然ガイドを頼むのがよさそうだった。森林総研などの学術調査のサポートもしているという星善男さんに一日ガイドしてもらうことにした。星さんは民宿こぶの木のご主人でもあるので、宿もそこに決める。



母島をメインにしたといっても移動がないのは中日のみだったので、その日に石灰岩地で有名な石門（せきもん）を訪れる。石門は小笠原でもっとも森林植生が発達し、ここにしかない希少生物も多いので、ガイドなしの立ち入りは禁止されている。星さんの後ろについて、ガイドを受けながら奥へと進んでいく。建材として珍重されて絶滅寸前になっているオガサワラグワ（クワ科）、すでに野生絶滅して人為的な再導入が図られているタイヨウフウトウカズラなどを見せてもらう。

小笠原の自然体験で印象に残ったことは、固有種や希少種が多いこと、その反面外来種が異常に多いことである。また、野生動物は警戒心が緩いのか、固有種のハハジマメグロでも手が届きそうなところを平気で構切っていく。

事前準備としては、集められる情報はできるだけ読んでいき、読めなかったものは長い船旅の間に読んだ。また、日本自然保護協会（NACS-J）の横山理事から小笠原に詳しい辻村さんを紹介いただき、直接話を伺うことができたのもよかった。

情報量多くG I Sなどもライブで使って説明したが、他の報告も多くて、長時間になり参加者は大変だったかも。(お)

3月

●釧路・達古武調査〔3-4日〕

釧路の達古武地域にある小さな沢で土砂堆積量の調査。土砂堆積量を計測するパイプ設置から3ヶ月経過して回収。冬季は沢の増水もないので、あまり堆積しないのかと思っていた



が、水底に埋めたパイプはほとんどが土砂でいっぱいになっていて、パイプ全体が埋没している場所もあった。小さな沢といえども、絶えず土砂が移動していることを実感する。

この調査中はよくエゾシカを見かけた。最近では冬場のシカがかなり増えている印象。夏場にもそのまま居座る個体も増えており、今後もシカの影響は大きそう。

帰りには、当時釧路の人気者になっていたラッコのくちゃんを見に行く。野生のラッコは初めてみたが、板の上で寝ている姿はぬいぐるみのようで、今ひとつ実感はわかなかった。(の)

●ユウパリコザクラの会・水尾さんら来社〔4日〕

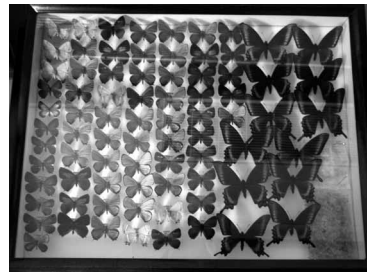
花の名山・夕張岳の自然を守るために、地元住民を中心にユウパリコザクラの会が結成されて20年。今年度はいつもの巡視活動に加えて、記念誌の発行や子ども向けの特別行事が企画され、その相談のために水尾君尾さんら4名と佐藤謙さんが来社。

結局、今年度は調査館として行事に参加したり協力したりする機会はなかったが、これらの行事はこれから数年にわたって続くそうなので、どこかで協力できればと思う。後日、完成した記念誌を送っていただく。(に)

●小高さん宅訪問〔7日〕

以前、ゼフ卵採取に同行させていただいたチョウ屋の小高さんから、もう要らないチョウの標本があるけど要る？と連絡がきて、さっそくいただきに小高さんのお宅へ伺う。お庭には様々なチョウを累代飼育するための食樹が所狭しと植えられており、さすがチョウ屋さんのお宅という感じ。

いただいた標本は、小高さんが累代飼育で集めたゼフィルスでアイノミドリシジミを中心に200匹以上。その他にミヤマカラスアゲハ20匹など。サイズが小さかったり、展翅が悪かったりしたものということだったが、素人が見るとそんなに悪く見えない標本も多い。やはり累代飼育する人の目は厳しいようだ。さらに、家の近くのシンジュについていたというシンジュサンの蛹(生)もたくさんいただく。扱い慣れずに、繭の表面がかびたりして心配するが、なんとか羽化してよい標本が得られた。(の)



●道新自然ガイド『藻岩山』打ち合わせ〔19日、4月15日〕

道内の方なら道新の自然ガイドシリーズはたいていご存知のはずで、何冊か持っているという人も多いだろう。そのシリーズで藻岩山をテーマにした出版企画があるとのことで、エコネットワークで話を伺う。道新から出版局編集グループ部(当時)の安川さんと担当の横山さんが出席。この企画は2年ほど前からあったそうだが、取りまとめ役の小川さんが酪農大の教授に就任したこともあって、調査館にバトンタッチしたいとお鉢が回ってきた。

あれだけ多くの札幌市民に親しまれていることを考えると意外だが、藻岩山周辺を扱った単体のガイドブックはこれま

で存在しなかったのだという。われわれも2005年から藻岩山・円山地区の生物調査をしてきたこともあり、その経験を生かせるならということでお引き受けする。すでに多少進んでいるが、小川さんによればそれは全く気にしないで新しく始めればよいということである。書き手の思いより読み手の使い勝手を重視した構成を考えてみることにする。スケジュールの台間を縫って藻岩山境界を歩いてみた報告は37ページに。

当初は来春に刊行予定だったが、札幌市がロープウェイや山頂施設を改修する計画を発表したこともあり、1年延期となりそう。 ついでに、北海道植物友の会の会報『蓑多尼訶』のバックナンバーや「ひがし大雪研究」(調査館編)の在庫販売について小川さんに相談したところ、エコネットで引き取ってくれることになった。(に)

●北方山草会・講演会〔21日〕

アマチュアの植物好きが集まる北方山草会の総会兼、講演会に出席する。

講演会は、北大の高橋英樹氏によるアツモリソウの話題と、梅沢俊氏のスライド上映会。いずれも会報で組まれたランの小特集を意識したもの。誰でも参加できる催しで、会員のみでなく大勢の参加があった。

自分もそうだが、ここ2、3年でだいぶ新入会員が増えたそう。また、次号の小特集は「超塩基性岩植物」に決まる。観察会はほとんどが泊まりでなかなか参加できないが、毎回興味深いものが組まれている。(に)

4月

●北海道盗掘防止ネットワーク活動報告会〔4日〕

90年代に希少植物の盗掘事件が多発したのをきっかけに作られた組織で、全国各地で野生植物の監視をしている構成団体が集まり、盗掘実態やその他の諸問題を話し合う集会を毎年開いている。今回久しぶりに参加する。

最初に北大の工藤岳さんの講演があった。高山生態系のあらましや、高山植生に対する地球温暖化の脅威について専門的ながら分かりやすく解説してもらえた。単なる総論ではなく、ご自身の研究データに基づいて解説されている点がみそで、どの話題も興味深い。

その後、北から順に各構成団体から活動内容や自然保護の現状などの報告があった。盗掘情報のみならず、登山道整備・教育普及活動などの紹介も多かった。礼文やオロフレ、大平山などではまだ盗掘が大きな問題になっているが、その他の地域では盗掘も下火になっているのかもしれない。また、山岳域でのセイヨウオオマルの捕獲活動が広まっていて、大雪、アボイ、雨竜沼などでは積極的に行なわれている。今年度うちで受託した道のセイヨウ捕獲事業も、こういう動きとうまく連動できればよいだろう。ただの盗掘監視だけではなく参加者が増えないが、調査なども合わせて行なえばこれまで来てもらえなかった人にも来てもらえるのではないかという意見もあった。(に)

●北海道植物友の会・講演会〔4日〕

盗掘防止ネットの集会を途中抜けて、植物友の会の総会兼、講演会に出かける。総会では今年度の観察会の行き先が提案される。講演は二本立てで、村野紀雄さんの「野幌森林公園をふりかえる」と、木野田君公さんの「我家の庭の昆虫」。村野さんの話題は、最近行ったという小笠原での体験を披露し、最後に改めて野幌の自然を考えてみようというもの。丹羽は直後に小笠原に行くことが決まっていて、いろいろガイドブックや資料を読んでいたところだったので参考になった。木野田さんの講演は2年前に北大で行なわれた、日高敏隆さんとのダブル講演でも聴いたことがあるもの。そういえば、最近日高さんの訃報をニュースで聞いた。(に)

●川辺さん来訪〔6日〕

ひがし大雪博物館の川辺さん一家が札幌に来た折に、ナキウサギの分布予測などについて相談する。夕張山系や日高サハライチとの間については、まだ未確認の場所も多いということで、2008年は夕張の調査に力を入れるとのことだった。丹羽が以前、夕張山系峠山で確認した痕跡はその後のフォローはなし....

自然史研究会を今後どうするのかという話も出た。定期的な大会の開催、研究報告集の発行などは進めていきたい。と一口、事務局の我々も仕事に追われてしまっているの、札幌近郊の博物館関係者の協力を得つつということ。(お)

●手稲さと川探検隊パンフ打ち合わせ〔14日〕

札幌手稲区を中心に活動するさと川探検隊のスタッフの皆さんと、野外での活動に使うマップや生き物ハンドブックの作成について打ち合わせ。これらは道新野生生物基金と前田一歩園財団の活動助成を受けて、作成される。本来は年度末を目標にしていたのだが、お互い忙しくこの時期まで延びていた。スタッフと意見交換しながら、使い方に合わせたマップやハンドブックの構成を決めていく。調査館は編集担当で、使う写真やイラスト、文章の多くは、できるだけスタッフや子ども隊員が担当して作成することに。(詳しくは12ページ参照のこと)(の)

5月

●北大キャンパス調査打ち合わせ〔11日〕

北大構内に残る自然環境を将来にわたって保全していく目的で、現在の生物情報を収集したり、データベースとして整備したりする仕事今年度から始まった。北大は市街地にある大学としては全国屈指のキャンパス面積を持ち、恵迪の森(北大原始林)と呼ばれる自然林も有する。それが北大のよさやアイデンティティにもなっているし、札幌市街地における貴重な自然でもある。しかし、最近構内の施設整備が急ピッチで進んでいて、

緑地の消失が相次いでいる。事前に保全すべき点が明らかになっていれば、計画に反映させられるようになるだろう、というものの。

北大には当然専門の先生方がいて構内での調査も昔からいろいろ行なわれているが、これまでデータの一元化はあまり進んでいない。また、組織的な調査も最近行なわれていないらしい。その一方で、与那覇モト子さんら植物愛好グループ「花さんぽ会」による熱心な活動によって地区別の分布情報の集積が進んでいる。

そこで、昆虫、鳥、両生類、植物などを対象に、生息位置、数(個体群サイズ)などを調べてマップ化、データベース化することを目指すことになった。事業全般は北大の生物学系研究者からなる生態ワーキング委員会が取り仕切り、調査自体も学内関係者が中心になって行なうので、われわれの役割はデータ所有者に聞き取りしてデータを提供してもらったり、データベースの構造を提案したりである。北大は広いので、これから何年かけて少しずつ情報整備を進める。

北大には長く通ったが、大学を出てからかなり経つ。久しぶりに構内を歩くと、中の様子もかなり変わっていて、驚かされることもしばしば。(に)

●函館山〔14日〕

仕事で道南に出かけたついでに木村マサ子さんを頼って函館に行く。函館山の生き字引のような木村さんに春の函館山を案内してもらった。学生生活の一部を函館で過ごしたので、そのころ函館山には何度も登っているが、今回初めて津軽海峡側の海岸に下りてみた。かなり昔には寒川という集落があったそうだが、今はほとんど人が立ち入らない場所である。どこかの無人島にでもいるような感じだった。

いたるところでカスミザクラが咲



き、ハナйкаダやコジマエンレイソウなど普段なかなかみれない植物を堪能できた。(に)

●達古武調査スタート〔21日〕

今年も自然林再生事業を担当することが決まり、野鳥の調査からスタートした。生態系モニタリングや地表処理の準備があるため、2008、2009年と早めのスタートが続いている。(お)

●セイヨウオオマルハナバチ調査 in 雨竜沼〔31日〕

セイヨウオオマルハナバチのトラップ調査の調査地の一つである雨竜沼でトラップの設置作業。雨竜沼では以前からセイヨウオオマルハナバチバスターズとしても熱心に活動している佐々木純一さんが代表の地元市民団体「雨竜沼湿原を愛する会」の皆さんに協力してもらい行なう。佐々木さんたちが熱心で、女王が起きる前の早い時期からの設置すれば女王バチの駆除にもつながるといことで、この時期になった。当日は、あいにくの天気。小雨のなか、登山口の南暑寒荘からスタート。山荘はまだ開いておらず、この日の登山者は私たちのグループのみだった。5月末とはいえ、登山口の標高は540mあり、まだエゾノリュウキンカやカタクリが盛りで早春の装い。湿原内を流れる水を集めて流れる沢沿いの登山道を登っていく。普通に登れば1時間程度でハイキングには手軽なコースだ。登山しながら、湿原手前までの6箇所にトラップを設置。湿原内は特別保護地区のため設置しなかった。また、会では、15年以上にわたって夏場に湿原内の気象観測を行っており、この日はその設置もかねており、湿原内に百葉箱を建て、バイメタルの測定器を設置した。

この時期の湿原はまだまだ雪が残っており、ミズバショウとワタスゲが咲いているぐらい。雨も降り寒かったが、この時期の湿原を見る機会はなかなかないので、よい経験だった。今回は、低温と雨の寒さのため、行動中にセイヨウを含め



て訪花昆虫を見ることはなかった。その後の佐々木さんたちの観察では、湿原でセイヨウが確認されたとの情報が入っている。(の)

6月

●滝川・初夏の自然観察会「おし花標本をつくる」〔6日〕

鮫島惇一郎さんの植物画(原画)が、滝川市の美術自然史館に寄贈されたことを記念して、『鮫島惇一郎植物画展「北ぐにの花暦」』が同館で開催された。鮫島さんは植物学者としてだけでなく、親しみやすいお人柄で道内の植物愛好家の間では有名である。

その関連事業として、親子自然観察会が行なわれ、講師役として出掛ける。午前は観察会&植物採集、午後は標本作り体験が行われた。春の花から初夏の花に移り変わる時期である。例年より低学年の女の子が目立った。このときはエゾハルゼミがとても多く、子どもたちの関心をひきつけていた。

午後は、午前中に採集した植物を室内で押し花標本にする。新聞紙に種名や採集地、採集者名を書いてもらうなど、一通りの手順を教える。小さな子が多かったので、手順を理解してもらうのにやや



手間取るが、その分は付き添いのお母さん方にがんばってもらう。乾燥するまでの紙換え作業は、展示用のものを自然史館で引き取って行なう。残りは各人持ち帰り、家でやってもらう。

前任の吉住さんが、広報の取材で顔を出してくれる。会ったのはかれこれ10年ぶりですね、という会話をする。(に)

●北大キャンパス調査〔8日〕

5月11日の打ち合わせ後、データ所有者に個別に相談しながらデータ提供をお願いして回っていた。この日は、何年にもわたって構内の植物調査をしている「花さんぽ会」の与那覇さんらに、現地を案内してもらいながら注目すべき植物などを一つ一つ教えてもらう。学生当時は知らなかったものが多く、いろいろ見せてもらってとても勉強になった。また、オオハナウドが満開で圧倒された。

与那覇さんたちが所有するデータについてはボリューム、精度とも申し分なく、キャンパスの保安全管理におおいに役立つものであることが再確認できた。あくまで与那覇さんたちの成果ということでもとめ、それを活用させていただくことになった。(に)



●川湯つつじヶ原資料収集〔10-11日〕

川湯のつつじヶ原の散策路にある野外標識を今回改修することになり、そのための情報収集や標本収集に展之と丹羽が川湯へ。この時期は、イソツツジが咲き始めており、エゾオオマルハナバチがよく訪花していた。翌朝は地元で20年以上続いているボランティアガイドによる早朝観察会に参加。地元スタッフは総

勢10名以上だったが、平日で雨の予報だったためかお客さんはうちを除くと1名のみ。市街地から硫黄山までを40分ほどかけて解説しながら歩くのだが、最初はゆったりペースも最後のほうはかなりペースがあがり、観察会という雰囲気ではなかった。朝食後は、あいにくの雨だったが地元の藤江さんと環境省の平田さんと一緒に歩きながら、標識の内容を確認していく。

落ち葉でできたアリ塚の内部の構造が話題になり、たまたま見つけた巣のそばの縁石をひっくり返すと、巣が地下に作られていることを発見する。イソツツジやハイマツなどおなじみのものから、ギンリョウソウという処理の難しそうなものまで封入標本用の標本を採集する。(の)



●岨山調査〔19日〕

入山規制が続く岨山に、今年も希少植物調査のため行く。調査隊長の佐藤謙さんがカナダに留学中のため不在だったが、道庁自然環境課のみなさんが同行する。また、地元の山岡さんとも別ルートではあったが一緒だった。無許可入山を防ぐためのゲートが増設されていた。(に)

●夕張岳希少植物調査〔29-30日〕

道の環境研や自然保護課のスタッフに混じって夕張岳の希少植物調査に行く。夕張岳ヒュッテに泊る。道が条例で指定した希少植物19種(11/11の項参照)のうち、夕張岳にはユウバリソウ・ユウバリコザクラ・シソバキスミレの3種が生育する。これらの現況を把握することが目的で、昨年度からの継続である。少しずつ調査事項が増える一方、体力は増えないので、下山時刻は年々遅くなる。

今回は想像以上に残雪が多くてびっくり。何度が雪渓を横断する。特に吹通し

の雪渓は 10m 以上の厚みで残っていた。冬季の降雪量は少なかったそうなので、春～初夏の天候不順の影響だろう。

下山したら小屋にユウパリコザクラの会の水尾さんが来ていて、お茶をいただきながらおしゃべりする。施設の老朽化が進んでいるそう。水場の小屋は撤去するそうで、水場の位置が移動していた。トイレも今のままでは問題があるということで、新しい施設を自前で作るそうだ。市の財政が厳しいこともあり、基本的にコザクラ会が資材調達から作業まですべてボランティアでやっているとのこと。(に)

7 月

●セイヨウ調査 in 芦別岳 (4-5 日)

道のセイヨウ調査で、芦別岳にトラップを設置する。地元の富良野山岳会の大屋さんには、トラップの設置作業のサポートだけでなく、山の案内もしていただいた。そのおかげで、トラップ掛け作業も覚悟していたよりはすんなり完了。後は山歩きを堪能する。芦別岳はこれまで一度も登ったことがなかったが、いつもふもとから美しい山だと憧れを持って眺めていた。当日は曇っていて眺望は今ひとつだったものの、時折雲の間から見える芦別岳の稜線美に一目ぼれしてしまった。開花中の高山植物も多く、とても楽しい登山だった。ただ、新道コースは入山者が多すぎて、登山道の土壌流出が進行している点が気付きである。今度は、大屋さんお勧めの旧道コースを歩いてみたいと思う。

また、前日の夕方にふもと周辺を歩いてみたところ、セイヨウは 1 頭しか観察



されず、在来マルハナバチが非常に多く観察された。大屋さんによれば以前からかなり駆除活動をやってきたそうなので、その成果が出ているのかもしれない。
※観察されたマルハナバチ：エゾオオ/エゾコ/アカ/エゾヒメ/エゾトラ/エゾナガ/セイヨウ (に)

●北大キャンパス調査 (10 日)

構内での調査中に着用するベストを借りるため、事務本部へ行く。学生時代には一度も足を踏み入れたことのない建物だったが、事情を話すとすぐに貸してもらえる。

構内の植物リストは「花さんぽ会」の与那覇さんたちが完成度の高いものを作ってくれているので、潜在植生の指標にもなる森林性植物について、生育量を調べようということが前回の打ち合わせで決まっていた。いい経験になるからという先生方の親心もあり、調査は植物同好会(植同)の学生さんたちに頼むことに。事前のメールではやりますと前向きの返事をもらっていたので、今日はその打ち合わせ。クラーク会館で待ち合わせしていると、ヨ人来てくれる。みんな道外出身者だった。用意した資料を使って調査内容を説明し、今年度の調査地と一緒に歩く。といっても、かなり雨が降っていたので、森の中に入って試みに調査するという感じではなかった。候補種のリストの中からやれそうな植物を決めてください、簡単でいいのでスケジュールが決まったら連絡くださいとお願いする。

植同はわれわれが学生のころもあったし、もっと前からある老舗のサークルで、現在 25 名くらいの会員がいるそう。割りときじんまりした人数だが、「似たような趣向のサークルが多いんでこんなもんです」とのこと。

地環研の裏を通ったら、すごい大量のゴミが山積みされていた。引越しが始まっている。なぜか環境科学研究科時代の看板も捨てられていた。(に)

●八剣山さくらんぼ祭り〔12 日〕

オオムラサキの小冊子（11 ページ）が完成したこともあり、八剣山の取材と家族サービス兼ねて、豊滝のさくらんぼ祭りへ。会場周辺は渋滞で、参加者が多いのにびっくり。地元の出店に混じって、オオムラサキを紹介する展示のテントがあり、幼虫・さなぎの生体、パネルなどとともに入標本が展示され、に小冊子を無料配布していた。ウチの娘も本物のオオムラサキを初めて見て喜んでいた。（お）



●ひがし大雪ガイド養成講座〔18-19 日〕

ひがし大雪博物館の恒例行事に今年も講師役で参加する。ニペソツ山登山観察会のはずだったが、大雨で中止。はじめから雨の予報だったので、やっぱりという感じ。直前にトムラウシで大量遭難事件があったし、無理はできない。

それでも朝 5:30 過ぎに三股に行くとすでに参加者が 2 人来ていた。その後も次々と集まり、最終的には 10 名ほどとなる。前夜は川辺さん宅でかなり飲んだので本当のところ二日酔いだったが、6 時過ぎから 1 時間ほど三股の旧保育所で高山植物の講義をする。寒かった。ストーブは壊れていたし、雨漏りがひどくて床板からキノコが生えていた。保育所は近々取り壊しされるらしい。学生時代にはよく寝泊りしていたので、ちょっとさびしい。

前日、プロジェクターを借りにガイドセンターに行き、河田さんともおしゃべりする。トムラウシの事故については、プロだけあって報道では分からない、なるほどという意見が聞けた。また宿泊は糠平 YH を使う。何年か前から温泉つきになっていてありがたい。（に）

●小樽野の花愛護会の観察会〔8 日〕

小樽で活動している市民グループの観察会に参加する。ふだんから市内各地でフロア調査をしたり、標本を作成して博物館に納めたりといった活動を地道に続けている。少人数のグループだが、みなさん植物に詳しい人ばかり。今回は 10 人くらいの参加者とともに、朝里川の上流に行く。二次林や石切り場跡地などを回る。あまり新たな植物は出なかったようが、最後に行った沢沿いでラン科などいくつか見つかる。（に）

●滝川・鮫島惇一郎植物画展〔22 日〕

滝川市美術自然史館で夏休み期間中に開催されていた鮫島さんの植物画展を見に行く。寄贈作品の一部を展示していたものと思うが、作品数は相当なものだった。エッセイ風の記事もついていて、つい長居してしまう。

6 月 6 日にあった親子自然観察会で作ったおし花標本も、きれいに台紙に張られてロビーに展示されていた。色落ちしていたのはちょっと残念だが、展示されてからすでに 1 ヶ月近く経っているのではない。また、H19 年度の「たきかわ野の花研究事業」で作成した『滝川の植物』の立体図鑑（封入標本）もいっしょに展示されていた。

会場では、雨竜沼湿原を愛する会の佐々木さんにばったり会う。（に）



●エゾシカ調査・現地検討会〔13-14 日〕

今年度からエゾシカによる森林への影響を検討する調査が国有林で開始された。

その調査現場を視察して、手法や対策を議論する検討会が釧路で開かれた。我々は調査と運営を担当して、エゾシカの研究者らを現地案内した。現地は阿寒・白糠周辺などを回ったが、この辺は以前からのエゾシカの影響が累積しており、スズタケの消滅やブラウジングラインの消失など、典型的な現象が見られる。

正直、調査地の選定や食痕の判別は容易ではなく、その辺の状況も共有してもらったが、結果は割とわかりやすい形でまとまった。ただ、森林管理者には、エゾシカの影響は樹皮剥ぎ以外はピンとこないようで、なかなか難しい。(お)

●達古武調査体験会〔19日〕

2008年度1回目の達古武での環境省主催の調査体験会。天気恵まれ、秋晴れのなか子どもから大人まで19名が参加して実施した。プログラムは「動物と木の子どもを調べる」で、午前中は、生け捕りワナを使って3つの異なる環境(草地・自然林・カラマツ林)で、野ネズミ生息数を比較した。

前日各環境に20個ずつワナを設置しておき、当日に参加者に各場所1つつネズミが掛かっているか確認しながら回収してもらう。環境によって捕まるネズミの種類が異なることを知ってもらうための実験デザインだったが、自然林では予想通り森林性のアカネズミが20個中7個と最も多く捕まった。一方、草地とカラマツ林では、草地性のエゾヤチネズミとアカネズミが捕まった。草地性のエゾヤチネズミが捕獲されることは予想した結果だが、アカネズミが自然林以外でも捕獲されることになり、この点は少し



具合の悪い結果だった。草地もカラマツ林も、自然林に隣接した近い場所に設置しており、自然林にいる個体が餌を探しに林外にも足を伸ばしていたようだ。ここでは、限られた自然林にこだわらず、他の場所も使って行動していることになる。また、トラップ調査を合わせて、餌の持ち取り実験を新作の自動撮影装置での撮影を試みるが、装置の不具合で撮影できず…残念。

午後は、稚樹(木の子ども)の成長を調べる。一昨年に調査した場所を再調査し、生存状況や成長を確認した。班に別れて、稚樹1本ごとに標識を付け、測定、記録を手分けして作業してもらう。内容は地味な作業だが、参加者も普段の生活では絶対することのない作業なので新鮮味を感じているようだった。これだけ何度も稚樹を見れば木の名前も忘れず覚えるねといった声も。調査本数は総計229本/8㎡。調査終了後、種別本数、高さ別本数をみなで集計し、一昨年との比較した。個体数は増え、背も平均で20cmほど成長しており、動きが見えにくい稚樹も少しずつ成長していることを知ってもらえたと思う。(の)

10月

●社員研修の講師〔7日〕

前年に続き、三井物産フォレストの社員研修の講師を引き受ける。この日は道内各地の事務所から職員のみなさんが集まり、沼田町や遠くは帯広方面からも来ていた。厚真や穂別には所有する山林を職員のみなさんと一緒に歩き、植物を見て解説したり、質問に答えたりする。午後に行った自然林では、野鳥の会と共同でフクロウを呼び取り組みをしていて、つい先日架けたばかりという真新しいフクロウ用の巣箱がトドマツ林に1基あった。

穂別ではエゾシカの姿や痕跡を見る機会は多く、つい林業への影響が気になったが、今のところはそれほどでもなさそうである。職員に尋ねてみても、特にエゾシカ対策はやっていないそう。(に)

●川湯標識の再整備〔8日～〕

2008 年秋から取り組んでいる野外展示の製作が大詰めに。環境省の平田さんらと何回もやりとりして詰めた内容がほぼできあがってくる。盤面や立体ジオラマを製作する日の出工皆さんの工場で、できあがりを確認したり、現場の下見をする。古い標識を台だけ残して付け替えるので、現場は台だけになり、一部は移動。11 月初めに全て完成して取り付けられた。(お)



●達古武調査体験会〔10日〕

第 2 回の体験会は前年とほぼ同じ内容で、苗・タネ集めと苗づくりの体験を行った。前日まで台風が来ていたこともあってか、残念ながら参加者は少なかったが、さまざまな作業をしてもらった。2009 年はミズナラ・ダケカンバとも不作で、イタヤカエデが若干採れるくらいで低調だった。(お)

●達古武・森林再生小委員会〔29日〕

毎年開催している委員会。前年に引き続き現地を見てもらい、地表処理などの進捗を確認して意見いただく。前年豊作だったので、実生の発生に期待していたのだが、かなり少ない残念な状況で、いいところ見せられず残念。今後カラマツの処理をどうするのかという点に議論があった。達古武の後には、国有林で取り組んでいる雷別地区の視察。こちらはパッチ状に植栽木が枯れたところの樹林化を目指しているが、コナラの苗木があって気になる。どう考えても地元の水ではないが……

前日には達古武流域を回って、森林の現況を把握するが、予想外に伐採が進んでいてがっかり。カラマツの値段が上がっ

たため、民有林で伐採が進んでいたのは知っていたが、広葉樹林もかなり切られている。裸地化して表土が流れてしまっているところも多く、再生も進んでいるといったいいのか疑問である。(お)

●エゾシカワークショップ〔29日〕

森林総研北海道支所で、「知床世界自然遺産地域における生態系管理のための指標開発」に関するワークショップが開かれ、勉強も兼ねて参加する。参加者は研究者や行政関係者を中心に 40 ～ 50 名くらいか。支所長が司会進行。

小泉透さんの基調講演の後、第 1 部では「知床生態系管理が目指すもの」として 5 人の発表があった。エゾシカの増加が特定の希少植物を減少させた例は多いが、生態系にどう影響を及ぼしているかを把握するのは容易ではない。草原や森林など生態系ごとに適当な指標を見つけるなどして評価手法を開発することが課題となるが、「ササは指標になるが、かなりシカが高密度にならないと影響が目に見えないので注意が必要」(幌さん)、「森林に使えるよい指標はまだ見つからない」(石川さん) などそう簡単ではない。ただ、目標にすべき植生についてはある程度具体像があるという。「本来はシカがほとんどいなかった明治初期の状況が分かれば一番よいが、そのデータはないので、1981 年の道の調査報告書のデータが使えるのではないか」(石川さん)。

また、岬地区では狩猟によるエゾシカ個体数調整をしているが、すでに植生にその影響が出始めているという(宮木さん)。調査からも、採餌量の減少、イネ科草本とササの生育量の増加が確認されている。宮木さんは、昨年度うちで作った知床岬地区の植生図を使っていていた。

第 2 部では、「生態系管理の新たな視点」として、シカの問題に関わらず、さまざまな生態系管理(適切な保全と資源活用)において今後必要となる知見や技術の紹介、最近の事例報告が森林総研の研究員 6 名によって行なわれた。ニホンジカの

増加が問題となっている大台ヶ原では、狩猟だけでなく、ササを刈るなどして餌資源を減らし、シカの個体数調整をしている。このような環境操作は野ネズミなどにも影響するので、生態系管理の観点からそういう効果についても検出できるような実験区が作られている(日野さん)。(に)

11月

●北海道盗掘防止ネットワーク・市民フォーラム〔7日〕

結成10周年を記念した集会(「高山植物をいつまでも!」)が札幌のりんゆうホールで開かれ、記念誌も同時に発行される(表紙写真は調査館提供)。準備の手伝いでもと思って30分前に行ったが、すでに準備は完了、大勢の一般聴衆が集まっていた。最終的な参加者は140名とのことで、テーブルがぜんぜん足りてなかった。梅沢さん、謙さんの講演が終わった段階でかなり人が減ったが、この手の集会としては大盛況といえるだろう。構成団体も、レブンクル自然館や山歩集団青い山脈など遠隔地からも多数参加。

ちょっと前まで山野草の盗掘については犯罪性があいまいだったが、この10年でかなり明確化され、一般にも普及が進んだと思う。一部の地域を除いては盗掘の件数も減っている。今後は、盗掘以外のテーマ(人為的な高山植物の持ち込みやセイヨウオオマル、外来植物の高山帯への侵入問題など)まで拡大するかどうかは課題とされた。実際には、すでに各団体が個別にそれらの問題に取り組んでいて、活動報告会などの場で情報交換が行なわれているので、すんなりいくのではないだろう。



事務局は、4代目の樋口さんが今回をもって降りることになり、今後は構成団体の持ち回りとなる。まずは、様似のアポイファンクラブの水野さんが担当。調査館は事務作業等の補佐をすることになる。(に)

●北海道希少野生動植物指定候補種検討委員会(植物部会)〔11日〕

希少種の中でも、特に絶滅に瀕している種を保全するために、道は平成13年に「北海道希少野生動植物の保護に関する条例」を制定している。この条例に該当する種の選定は、専門家からなる検討委員会の議論に基づいている。また、植物についてはすでに19種が指定されているが、一括指定ではなく漸次追加されてきており、現在も追加種の検討が続けられている。今年度から私もその一員となり、この日行なわれた委員会に初めて出席した(内容は非公開なのでグメンナサイ)。

委員会のもう一つの役割は、指定された種の現状を把握し、必要な措置等を宣言することである。条文を読むと、道には「野生動植物が置かれている状況を常に把握する」責務があるとなっている。つまり、指定しっぱなしはだめで、モニタリングもやりますということだ。モニタリングは、環境研と委員が中心となって地元自然保護グループの協力も得ながら行なわれている。

この条例では、指定種を「指定希少野生動植物」と「特定希少野生動植物」に区分している。前者がこの条例の基本にあたるもので、指定種すべてが該当する。後者は、このうちすでに山草業界で広く流通しているもので、盗掘防止のためには譲渡を監視する必要があると判断された種が対象となっている(例えばヒダカソウやキリギシソウ)。国の「種の保存法」とかぶるが、種の保存法が指定するホテイアツモリやレブンアツモリソウなどは対象から外されている。また、同様の条例は長野県や山梨県などでも制定されている。(に)

●植物友の会講演会・忘年会〔5 日〕

年末恒例の行事。講演は幹事の日野間さんで、いつもの軽いノリだったが、興味深い話だった。拓銀総研の植物目録を編纂し、ウェブで道内の植物の分布図を掲載している日野間さんだが、リンネの原書など分類の記載の本が今はウェブですぐ確認できることや、アメリカやイギリス、ドイツの分布図などのデータサイトの紹介をした。一見ネット・コンピュータと縁遠いような分類学や歴史の研究も、世界がどんどん変わっていると感じた。自宅で 18 世紀の本をすぐ読めるというのはすごいことである。

そのほか、福地さんからは藻岩山の再開発の問題の紹介があった。ガラス張りの大きな施設をつくるなど、疑問の多い計画だったが、翌週に道自然保護協会から札幌市長に申し入れるなどして再検討に入ったようだ。(お)

●北方山草会・忘年会〔5 日〕

北方山草会の忘年会兼、運営委員会に出席する。今回は植物友の会の忘年会とダブってしまったので、どっちに行くか迷ったが（重複会員は多いのでそういう人はほかにもいたと思う。友の会の忘年会はずっと皆勤だったのだが…）、他の二人が友の会に行くというので山草会に出ることにした。札幌駅北口の居酒屋で行なわれる。最初に新会長の野坂志朗さんから挨拶があった。野坂さんは、全道各地に点在する蛇紋岩地帯の植物相について精力的な研究を続けてこられたことでよく知られた方で、会発足当時の会員でもある。

事務局の五十嵐博さんから次号会誌（27 号）の編集作業の進捗状況の報告があり、続いて来年度の行事予定や来春の総会の講演者（晦沢さんと堀江さん）が告知された。また、28 号の小特集のテーマをサクラソウ類とすることが提案された。(に)

藻岩山・円山周辺取材記 2009

丹羽真一

道新自然ガイドのための取材で藻岩山・円山周辺を歩いた記録をまとめて紹介。

●三角山取材〔5 月 2 日〕

GW 期間中に三角山に取材で出かけた。コース案内をイメージして、三角山～大倉山～小別沢を縦走する。じつは三角山に登るのは初めてだったので、メモを取ったり写真を撮ったりしながら、山歩きを楽しむつもりでゆっくり歩く。春植物のニリンソウ、エンレイソウ、エゾエンゴサクが目立つ。小さな山だが、頂上に近づくとかげカンバが現れ、垂直分布を感じさせてくれる。この日は花曇で山頂からの眺めはいまいちだったが、よく晴れていれば札幌の市街地がよく見えるはず。

三角山自体は藻岩山や円山並みに登山者が多いが、大倉山方面に向かうとかなり人も少なくなり、シャンツェ～小別沢はほとんど人に出会わなかった。このコースはエゾエンゴサクがとて多く、遠くから見ると林床が青白く見えるほど。たくさんのコマルやオオマルが訪花している。

また周辺も見えておきたかったので、円山公園（北海道神宮）や琴似発寒川沿いも歩く。花見客でにぎわう円山公園はもちろん、どこも大勢の人が繰り出していて、いたるところでジンギスカンを楽しむ姿が見られた。

●真駒内周辺散策〔5 月 28 日〕

2 回目の取材で、真駒内周辺を歩く。藻岩山に行くような人には真駒内周辺をふだん歩いている人も多いから、ガイドに含めたいという小川巖さんのアドバイスを受けてである。真駒内公園、藻南公園、競技場、サケ科学館、花魁淵、鞍山などを丸一日かけて回る。休日だったので、公園などは人が多かったが、この時期に林内の散策路を歩く人はほとんどいない。天気には恵まれたが、この時期にしては異常に蒸し暑かった。

●藻岩山の日取材〔5月31日〕 ※渡辺修

5/31は藻岩山の正式な山開きの比で、「藻岩山の日」となっている。ロープウェイは無料開放され混雑が予想される上に、雨模様ではあったが、取材兼ねて家族で行ってみた。

案の定大変混雑していたが、普段の散策・登山とは異なる視点でロープウェイ利用で山頂へ。ロープウェイは結構早いので樹木を楽しむことなどは難しいかも。観光客向けには夜景が全面に打ち出されていて、自然は影が薄い。しかし全く情報ないので、簡単な花や木の紹介パンフなどはニーズがあるのでは。

山頂では記念イベントをやっていたが、雨ということもあり、やや分かり難し。グッズなども試しに買って見たが.... どうなんでしょう(笑)



行って知ったが、ロープウェイ駅などの改修は来年度からということで、アンケートをとったり「一時さようなら企画」をやっていた。イベントはいかにも市役所の中だけで連携を考えたという感じで、広がりが無い印象なのは残念。

●藻岩山取材〔7月14日〕

3回目の取材で、藻岩山を歩く。慈啓会コース～馬の背～山頂～藻岩スキー場と丸一日かけて歩く。平日だったが、それでもまずまずの登山者を見かける。暗い林内にはダイコンソウ、オオウバユリの花がよく咲いていて、夏もすぐそこという感じ。スキー場は草原状になっていて、外来植物も多いが、ところどころお花畑のようにになっている。たくさんのマルハナバチが飛んでいて、少ないが山地性のエゾナガマルハナバチもいた。セイヨウモいそうだったが、今回は見かけなかった。

●八剣山取材〔7月20日〕

雨のひがし大雪から戻ったばかりだったが、天気が回復するという予報が出ていたので、気を取り直して八剣山に行く。中央口近くのサクランボ園はそこそこ混んでいた。「登山に来たけど、車止めていいですか」と尋ね



ると、店の前においていいよと言われる。もう時期が遅いということで、サクランボ狩りは一人200円、時間無制限になっていた。

久々だったこともあるが、登山口はちょっと分かりづらかった。雨上がりで足元が悪かったにもかかわらず、登っている人は結構いる。八剣山の魅力はなんといっても山頂付近の岩峰だが、樹林帯も円山、藻岩山と同様、大木が多くてなかなか見ごたえがある。

この日は雨上がりで空気が澄んでいて、いい眺望写真が撮れた。花はもう少し少ないが、オオウバユリ、エゾスズラン、エゾマンテマなど。下山は西口に降りるコースをたどってみる。こちらは人は少ない。

まだ十分時間があつたので、近くの北方自然園、白川市民の森に行ってみる。北方自然園は初めてでよく知らずに行ったが、札幌市が子どもの野外活動のフィールドとして整備したもの。学習館という比較的新しくて大きな施設があるが、展示としては色あせた昆虫標本がやたらにあるだけだった。

白川市民の森は、北方自然園のすぐ裏手に当たる。かなり広いが、車の置き場所は狭い。草刈の業者以外、ほとんど人はいなかった。二次林や造林に失敗したような人工林ばかりで自然観察にはいまいちか。散策路が張り巡らされているが、歩いて楽しい散策路ではない。クマの痕跡情報が入り口に出ていたが、かなり麓近くにも大きくて新しいクマ糞があつて驚いた。知り合いを通じて札幌市には通報しておく。

●円山取材〔10月12日〕

体育の日、晴れの予報が出ていたので円山に行く。行きは八十八箇所コース、帰り

は動物園裏に下りるコース。できれば紅葉の写真など撮りたかったが、さすがにこの標高ではまだ早く、ハウチワカエデぐらい。ただ、視程がよくて、山頂から札幌の市街地がよく眺められた。登山者は多く、ひっきりなしに家族連れが登っていた。日差しがあれば散策にはちょうどよい時期である。

シマリスがあちこちで出没する。子ども連れに大人気だったが、餌付けされたものだ。餌台の箇所数は増えてないが、餌台のない場所でも餌付けが行なわれている。巨大な望遠レンズを持ち歩くおじさんたちが何人もいて、

それぞれのお気に入りの撮影ポイントで餌付けしているらしい。

遊歩道沿いの風景（榎生）、木の実（ウリノキ・ハイヌガヤ・ハシドイ）、頂上からの眺望、ルート上の道標などの写真を撮る。



（オマケ）事業仕分けを聞いてみる 2009

渡辺修

8月に政権交代した鳩山政権の下、行政刷新会議の公開ワーキンググループが11月に開かれた。いわゆる「事業仕分け」というヤツで、平成22年度の概算要求予算からピックアップした事業についてムダ遣いを洗い出す作業をインターネットでも中継しながら行なった。中継へのアクセスは270万回に達したそうで、自分も仕事しながらラジオよろしく中継を聞いた口である。

これがなかなか面白く、楽しめた。この面白さは、個別具体的な事業について担当官僚が出てきてやりとりをすることにある。「何もいじめるときだけ官僚出さずに政治家同士でやれば」とか（そりゃタダの予算委員会だ）、「根本の政策についてやるべき」という意見もあるが、こういうことは個別具体的にやらないと見えてこないということをよく示していたと思う。国会とか諮問委員会とかを公開でやっても最後のところは担当者が「意見を承って善処します」ということで終わってしまうので、最終形が見えてこない。もちろん今回もそういう結果になる可能性はあるが、予算という役所の唯一のものさしを使っているの、その分リアルになっている気がする。

実際聞いて見ると、マスコミの報道がいかにも実態からかけ離れているかを感じる。全体総括をした枝野議員の話が分かりやすいが、今回問うているのは「手段の合理性」だが、官僚側は「目的の重要性」を繰り返し主張す

るのみ。皆そうなのだが、特に自衛隊やスパコンはただ「大事な事業なので予算をつけました」というだけで、それが本当に効果があるのか、特殊法人などに無駄に予算が流れていないかという問いただしに答えられない（まあそもそも役人には答えづらい話ですが…）。

しかしマスコミ報道では、スパコンやスポーツ振興の話でノーベル賞やメダリストの話に悪ノリしたように、「素人が短時間でオカネ節約というモノサシだけで、科学技術や文化をずたずたにしている」という（いかにも官僚と自民党が喜びそうな）ミスリードが強かった（主要マスコミでブレずに評価していたのは日経くらい）。

でもこれ、ミスリードされて批判している人も、実際の作業を聞けばすぐにどっちが正しいか分かると思う（録音や議事録もウェブにある）。そもそも評価者（仕分け人）には金田東大教授のようなコンピュータの専門家がいる一方で、スパコン仕分けの批判の先頭に立っていた野依氏はノーベル賞受賞後は文科省の委員を務め、仕分けされる立場の理化学研究所の理事長である。さらにスパコン開発は主担当だったNECと日立が5月に撤退し、手法も大幅に変更せざるを得なくなったにもかかわらず、1500億以上を何事もなかったかのようにつぎ込むという怪しい事業である。世界一になるというのもウソ臭い。文科省側は「重要な事業」と繰り返すだけで、疑問には答えられない。

[illegible]

※資料は当日配布物をスキャンしているらしく、午前中はアップされていないことが多かった。しかもコピーをスキャンしていて汚い(笑)。そんなのデータでもらえて。次回は改善してほしいところ。

今回公開することの意義が注目されているが、市民がマスコミを通さずに直接見聞きできることは本当に重要。マスコミのお馬鹿さんぶりも際立つイベントだった（彼らは国民に合わせてやっていると思っているんでしょうけど）。《ノーベル賞受賞者らが仕分け批判で集結》と、《文科省天下りを受け入れている特殊法人の理事長が予算削減に抵抗》じゃあ、印象がだいぶ違う（笑）。

ただ、今回のWGでも政策の内容やあり方に踏み込む議論がずいぶんあったが、逆に結論が予算の増減に絞られるため、制約もあると感じた。あり方を直せという意味で「縮減」と判定したのに、全く改善せずお金だけ切るとか言うことが平気でやられてしまいそうだ。当然ながら来年度以降は政策自体の見直し込みでやってもらわないといけない。

最後に、自分達にも関連ある分野で仕分け対象だった事業のやり取りを簡単に紹介する。

・ 3-45 森林整備への支援（林野庁）／ 3-46 森林所有者
向け支援（林野庁）／ 3-47 鳥獣被害防止総合対策事業（農
林水産省）／ 1-60 生物多様性の保全等の推進に必要な
経費（その他）自然環境保全基礎調査費等（環境省）

■森林整備への支援

★ 21 年度補正予算と同じ内容というのはどういうことか。集約化・効率化と言うのは普通前からやっているのでは。いまさらなぜモデル・調査なのか。

⇒ 説明ははっきりいってしどろもどろで、効果がよく分からないということで、あっさり廃止に。一次産業系は、民間の感覚では全く説明のつかないことがいっぱいあるので（官僚は政治案件だからと言うのでしょうか）、自民党が下野している間にきちんと整理して欲しいと思う。一次産業を助けているようで、シャブ漬けダメ産業にはしてはいけない。

■生物多様性の保全等の推進

★全国でスタンプラリーをやるといってこれだけで効果あるのか。写真コンテストとか。学校や自治体に協力してもらえば済む。ウェブサイトが500万とか受ける側にしたらラッキーですけど（笑）

⇒ 広報系の事業は役所もアリバイ的にやっていることが多いので説明は苦しくなる。本当に効果を考えてやっているわけじゃないから当然だ。ちょっと担当者には同情はする。

★自然環境基礎調査は一周するのに10年かかる

なら、また修正必要になっちゃうのでは。リモセンなど技術考えて効果的にすべきでは。補正でもやったのに緊急性あるのか。

⇒ 判定は要求通りと縮減が6名ずつだった
が、30%縮小を食らっていた。植生図はとても重
要で有用なものだが、伝わっていなかった。確か
に前は河川調査のような建設省と丸かぶりでも意
味のないものもあったし、大もとのやり方の工夫は
たくさん必要とは思う。

★小ネタ 環境省は本来他省庁の政策にも関わるべきものが多いが、それができてない。当然縦割りなのではと突っ込まれるが、環境省の人は回答がサバサバしている。「全くその通りです。本当は一本化して聊（ちやう）ずかしくない形にしたいです」「金融庁には断（ことわ）られました」「却（かえ）下（くだ）されました… 前の与党にです」役人っぽさが一番ない役所（笑）。

★小ネタ 第1WGの評価者に環境NGOのまさのあつこさんが入っているが、懸命に関連質問として「多様性を言うならRGB種の絶滅を引き起こすダムの見直しをすべきでは」などと突撃していた。それを環境省に言っても無理筋だが、こういうことが表の場で聞けるという意味では頑張った意味はあるのかも。

★小ネタ 防衛省が説明で「冷戦崩壊後…」と言っていた。普通「冷戦終結」「和平崩壊」だろ…。やっぱ終結して残念だったのかな（笑）。

■ウェブ参考資料（一次情報に近いもののみ）

- ・ 行政刷新会議ワーキンググループ・資料集
<http://www.cao.go.jp/sasshin/oshirase/shiryo.html>
- ・ 事業仕分け WS3 科学分野 まとめウィキ
<http://mercury.dbcls.jp/w/>
- ・ マル激トーク・オン・ディマンド 第452回・「事業仕分け」から見えてきたこと (ゲスト: 岐野幸男氏)
<http://www.videonews.com/on-demand/451460/001298.php>
- ・ 知恵市場「行政刷新会議、事業仕分けのメディアと実際の違い」 http://www.chieichiba.net/blog/2009/11/bu_paco_113.html



達古武・冬のエゾシカ(3月)



ラッコのくうちん(3月)



小笠原・母島石門(5月)



小笠原・マルハチの倒木(5月)



小笠原・オガサワラトカゲ(5月)



小笠原・南島扇池(5月)



北大・エゾノウミズザクラ(5月)



石狩浜・マルハナトラップ(5月)



雨龍沼・トラップ設置(5月)



藻岩山の日・ロープウェイ(5月)



シンジュサン羽化(6月)



滝川・植物観察会(6月)



北大・ユリノキの花(6月)



川湯・イソツツジ訪花(6月)



川湯・早朝観察会(6月)



雌山・アツモリソウ食痕(6月)



真駒内・おいらん淵(6月)



夕張・ユウパニコザクラ(6月)



夕張・ユウパリソウ食痕(6月)



富良野・セイヨウオオマル(7月)



芦別岳・北尾根(7月)



芦別岳・ツクモグサ(7月)



八剣山・オオムラサキ展示(7月)



藻岩山・夏のスキー場(7月)



八剣山(7月)



八剣山・エゾトラマルハナバチ(7月)



小樽・植物採集(8月)



滝川・封入標本展示(8月)



阿寒・エゾシカ料理(9月)



釧路・エゾシカ現地検討会(9月)



達古武・稚樹調査体験(9月)



穂別・社員森林研修会(10月)



達古武・稚樹採集(10月)



達古武・ホノキ豊作(10月)



円山・山頂からの眺望(10月)



達古武・新規伐採箇所(10月)



達古武・現地委員会(10月)



盗掘防止ネットフォーラム(11月)



北大・大野池マガモ(11月)



北大・クヌギ黄葉(11月)